大分県合格者占有率No.1

総合資格学院 大分校

㈱総合資格（岸隆司代表取締役）が運営する総合資格学院大分校（川添泰弘学校長）は1月9日、大分市の大分オアシスタワーホテルで1・2級建築士試験合格者などを招き、合格祝賀会を開いた。県内の1級建築士の設計製図試験合格者は22人で、うち11人（占有率50％）が同学院大分校の現役受講生だった。

挨拶する川添学校長

川添泰弘㈱総合資格学院大分校学校長が「合格した方は、昨年の疲れを癒し、これから次の資格を目指す方は、今年も頑張ってほしい」とあいさつ。1級建築士講師の近藤正一日本文理大学教授が「時代に乗り遅れることなく、環境に順応できる人材になってほしい」と述べて乾杯の音頭を取り、1級建築士の合格者代表で、小野真希㈱和田組企画設計部長が「皆さんのおかげで、合格できた。総合資格学院に来てよかった」と感謝を述べた。

1・2級建築士になるには、学科試験に合格し、さらに設計製図試験に合格しなければならない。28年度の県内の1級建築士設計製図試験合格者は22人、うち11人（占有率50％）が同学院大分校の現役受講生。また、22人のうち、28年度に学科と製図試験に合格したストレート合格者は10人、うち6人（同60％）が同学院大分校の現役受講生になった。

なお、全国の1級建築士製図試験合格者は3673人、うち同学院の現役受講生は1957人（同53・3％）、24～28年度の合計合格者1万9562人、うち1万636人（同54・4％）が同学院の受講生だった。

各資格を取得したい方は、ぜひ同学院大分校（TEL 097〈540〉6281）まで連絡を。

各資格の合格者に聞く

質問項目
①今の仕事に進もうと思ったきっかけは？
②資格受験を決断した理由。
③なぜ総合資格に入校を？
④受験期間中の印象に残るエピソードは？
⑤合格のポイントはどこ？
⑥今後の目標を！

取得資格：1級建築士
㈱和田組企画開発部
小野 真希さん

①部屋のコーディネイトや家の広告を見るのが大好きでした。中学生の時、工業高校に建築学科があることを知り、右も左も分からないまま入学しました。
②2級建築士合格後、結婚と育児で時間が取れませんでした。3人を子育て中ですが、一番下の子どもが小学生になったので、挑戦をしました。
③先生に直接質問でき、勉強の仕方を教わることができる総合資格学院を3回目の受験の時に選びました。1回目の時に入校しておけばと後悔しています。
④好きなお酒を断ち、楽しそうに飲みに行く人たちの姿を横目で見ながら送り出す姿が、本当につらそうだったと会社の人に言われました。
⑤自分を信じなかった時＝不合格だと思います。最後まで、自分を信じてコツコツ勉強しました。
⑥一級建築士としてこれから頑張ります。

取得資格：宅地建物取引士
プロパティーワコー㈱
下田 有紗さん

①大学時代に建築を学んでいたので、知識を活かせる職に就きたいと思っていました。その中でも人の暮らしに携われる不動産業界に魅力を感じました。
②今の仕事が賃貸物件の仲介業務だからです。仕事でキャリアを積むためには必要な資格で、会社からの支援もありましたので受験しました。
③会社の方針です。
④会社の同期6人と一緒に受講し、毎週学生に戻ったような感覚で通っていました。仲間がいたので、途中であきらめず勉強を続けられたと思っています。
⑤いかに勉強時間を確保できるかだと思います。毎日少しでも問題を解くことで、だんだんと点数が伸びていったように感じます。
⑥勉強期間中は、先輩たちが代わりに仕事を引き受けてくれたりと、多くの支援を受けました。他の資格も取得し、仕事の幅を広げていきたいと思います。

取得資格：2級建築士
㈱佐伯建設設計部
宮﨑 泰樹さん

①小学生の時、ラグビーの先生の設計した建物を見せてもらい、地図に残る仕事、お客様の夢を叶えながら自分の夢も叶えられる話に感銘を受けたからです。
②ラグビーの先生やいろいろな方から、建築家になるためには1級建築士の資格が必要と聞かされました。2級建築士は夢を叶るための第1歩です。
③全国の合格者占有率が第1位というデータを考えると、必然的に総合資格学院になります。リスクがかかる分、やる気が普段以上に出るのは間違いありません。
④模擬試験のたびに、得点が取れる教科と取れない教科あり、合格へ不安があった。しかし、諦めずに問題をできるようにしていくと、得点が安定してきました。
⑤ただ、講義を受けてもダメ。回答の良いところ、悪いところを確認して吸収し、各課題を繰り返し解けば、応用していくことも可能になります。
⑥自分はやればできると気づくことができました。第2ステップとして、1級建築士を目指します。もちろん、ストレート合格を狙います。

取得資格：建築整備士
㈲第一設備設計事務所
小野 貴道さん

①専門学校でCADを学び、CADを使った仕事に就きたいと思ったからです。
②仕事をするうえで、必要な資格だったからです。
③2級建築士（資格取得済）で受講していたこともあり、今回も受講をしました。
④シャーペンで文字をたくさん書くのが、とてもきつかったです。
⑤ひたすら書いて覚えることが一番大切だと思います。
⑥次のステップである1級建築士合格、そして、その上の設備設計一級建築士の資格取得を目指していきます。